



三田さんの優しい歌声に聞き入る子どもたち

地元出身の演歌歌手・三田杏華さんが講演 「私が選んだ歌の道～ふるさとは花吹雪～」

児童生徒が地域の先輩たちに学ぶ「第4回おだのふれあい講演会」（小田小・中学校運営協議会主催）が9月19日、同校体育館で開かれました。講師の三田杏華さんは演歌や小田地域への思いを伝え、故郷を懐かしむ気持ちを歌った『ふるさとは花吹雪』など6曲を披露。「私は小田へ帰るたびに元気をもらう。皆さんも心のふるさとを胸に頑張って、未来に羽ばたいて」とエールを送りました。



ツルムラサキを紹介する菊地さん（写真中央）と生産者

「この野菜、どうやって作っているの？」 生産者とオンライン食育授業

小学生が農家の思いを聞く食育の授業が9月19日、内子小学校で行われました。㈱楽農研究所の菊地義一さんや愛媛県の協力で実施したもので、当日の給食に使われた「ツルムラサキ」の生産者と、同校の3年生がライブ配信で交流。児童らは食材の特徴や栽培方法などを熱心に学びました。菊地さんは「いろいろな食べ物のことを知って、食への関心を深めてほしい」と呼びかけました。



タケノコに似た風味の「マコモタケ」を調理して販売

山ならではの楽しみ方を提案 秋分の深山を遊ぶ「やまなみん」

小田深山で食や音楽を楽しむ催し「やまなみん」（同実行委員会主催、佐野晋平代表）が9月22日から3日間、ソルファオダスキー場で開かれました。来場者は秋晴れの中、焼き菓子やパンの販売、E-バイクの試乗、小田分校吹奏楽部の演奏などを思い思いに満喫。佐野さんは「小田深山の楽しみ方はいろいろ。誰もが童心に帰って、のびのびと過ごせる場になれば」と語りました。



18年前から句会に参加している毛利さん（写真中央）

戦後から続く俳人の集い 俳誌「せきれい」が節目の600号

せきれい俳句会が毎月発行する俳誌が創刊600号を迎え、記念大会が9月24日、内子自治センターで開かれました。同会の会員14人が集まり、昭和29年12月から続く過去の冊子を見ながら、俳句を教わった恩師との思い出などを振り返りました。5代目主幹の毛利喜子さん＝下立山＝は「みんなで俳句を詠んだり喋ったりするのが生きがい。次は650号を目指したい」とほほ笑みました。

職人のこだわりが詰まった2日間 五十崎で手づくり市を開催

手仕事の魅力を伝える「IKAZAKIクラフトフェア」（五十崎商工連盟匠会主催、成田幸子委員長）が8月27・28の両日、五十崎風博物館で開かれました。町内外から18組が出店し、職人こだわりの木工品や和紙のアクセサリなどが数多く並びました。天然石のプレスレット作りを体験した彦川愛結花さん（7）＝松山市＝は「かわいくできてうれしい」と満足そうでした。



出店者との会話も楽しみながら商品を手に取る

おじいちゃんおばあちゃんと堪能 採れたてのブドウ、一緒に食べようね

内子幼稚園のブドウ狩り体験が8月30日、(有)エコファームうちこで行われました。園児やその祖父母ら40人が参加し、シャインマスカットやピオーネを収穫しながら交流。採れたてのブドウを笑顔で頬張る園児たちを、保護者は優しい表情で見守っていました。西渕和美さん＝富中＝は「孫と外で一緒に食べるブドウは特別おいしい。成長も感じられて、夏のいい思い出になった」と笑顔でした。



顔ほどの大きさのシャインマスカットに笑みがこぼれる

芝居小屋で振り返る地域の文化 愛大生が聞き取り調査を実施

小田地域の生活文化などを研究する愛媛大学社会共創学部・井口梓研究室が8月28日から4日間、かつて存在した芝居小屋の聞き取り調査をしました。当時を知る10人の思い出や記憶を、33枚の模造紙にまとめて小田自治センターで展示しています。調査に協力した成田忠史さん（83）は「よくまとめられて感心。地域の歴史をつなぐ大切さを考える、いい機会になった」と話しました。



展示された資料を見ながら談笑する成田さんと学生たち

いつか来る土砂災害に備えて—— 映像や模型で理解を深める学習会

愛媛県砂防課の出張防災学習会が9月7日、内子東自治センターで開かれ、石畳小学校の児童10人が参加しました。がけ崩れや地滑りが起きる仕組みや避難方法を模型で教わったり、土石流3Dシアターを体験したりして、土砂災害の怖さと日頃の備えの大切さを学びました。武藤春喜さん（6年）は「自分が住む地域にも危険があると分かった。普段から気を付けたい」と話しました。



土石流が起きたときの被害の大きさを模型で学ぶ